

真崎小学校6年生 森林環境教育

川崎町立真崎小学校は、緑に囲まれ、落ち着いた環境の小規模校です。今年はコロナ禍の影響で楽しい行事が削られる中、6年生に思い出になる体験をさせたいということで、この学習が設定されました。打合せの段階から先生方の熱意が伝わり、スタッフもぜひ子ども達の心に残る活動にしたいとの思いで臨みました。

10時40分から授業が始まり、私達の挨拶・自己紹介の言葉に気持ちよく反応してくれる子ども達に少しほっとしました。続いて「森林インストラクターって何？」という話をする、「ぼくも(資格を)とりたい！」という頼もしい声が上がります。

アイスブレイクの活動では、樹木に関するクイズを3問、2択で出しました。「木はどこが太る?」「年輪で方角がわかる?」「イチョウの銀杏がなるのは?」…どれも答えは分かれ、○×関係なく驚きの声も上がったりして和やかな空気になりました。イチョウは川崎町のシンボルツリーでもあるので、見直すきっかけになればいいなと思います。

そして、いよいよメインのクラフト活動。どの子ども木の実や枝の素材をあれこれと手に取り、自分のイメージを膨らませながら次々と制作を進めていきました。その造形のセンスのよさと、作業の丁寧さには驚くばかり。聞けば、担任の先生が図工の指導に熱心で、県展等にたくさん入賞しているとのこと、日頃の教育の賜物かと、納得です。20分もすると、出来上がる子も見られ、セルフラミネートでのメッセージカード作りを始めました。



このあたりから、子ども達の進み具合に開きが表れ、スタッフの支援も追いつかない位でした。クラフトは全員完成しましたが、あっという間に時間がきてひとまず終了。



次に、森林に関する学習として「どんぐりの話」を、資料をもとに話をしました。話を聞きながら、改めて自分の作品のどんぐりを確かめたり、熱心にメモをとったりする姿が見られました。

学習のまとめでは、数名の子どもが自分の作品を発表しました。友達の作品に対して素直に称賛し、良さを認め合う姿にまた感動。最後に、児童代表の挨拶(お礼の言葉)に、スタッフ一同ジーン。6年生の思い出の1つになってくれたらと、願わずにはられません。作品は、しばらく校内に展示されるようなので、全校児童や保護者にも喜ばれることと思います。このように貴重な機会を与えてくれた人・モノ・コトに感謝しながら、学校を後にしました。

スタッフ：中村、大森、後藤、高田（報告）